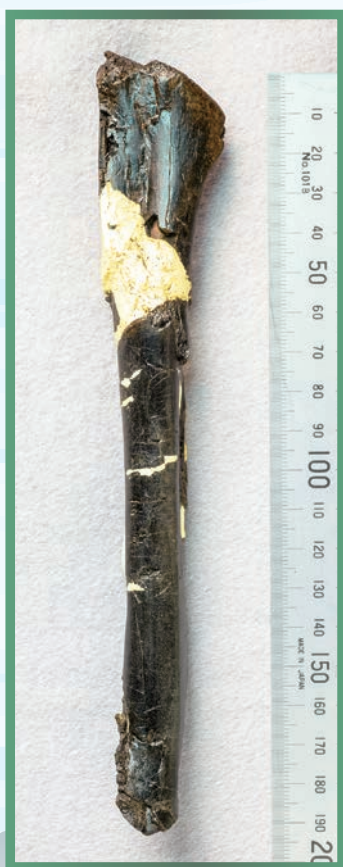


ニュース



徳島県勝浦町産の獣脚類恐竜の脛骨化石

左写真：岩石から取り出され、補修された脛骨化石 長さは、約19.5 cm

右画：獣脚類のイメージ（参考：白亜紀後期の獣脚類ヴェロキラプトル）（画提供：山本 匠）

2018年春に徳島県勝浦町の白亜紀前期の地層において、恐竜化石含有層が発見されたことから、同年冬（11月28日～12月16日）に、徳島県立博物館が中心となって緊急発掘調査を実施しました。その調査の結果、恐竜化石を含む47点もの脊椎動物化石が発見されました。

写真の化石は、発掘調査で発見された獣脚類の左脛骨（左脚のすねの骨）化石です。成体（大人）あるいは、幼体（子ども）なのかは、現段階で不明ですが、全長2メートルほどの獣脚類と推定されます。獣脚類の多くは、肉食であることから、この脛骨化石の持ち主も肉食恐竜であった可能性があります。

この獣脚類の脛骨化石は、令和元年度の夏の企画展「とくしまの恐竜時代」にて公開します。

（地学担当：辻野泰之）

県民の力で 文化の森の植物を調べる ～『中級クラス植物観察会』の活動から～

茨 木 靖

博物館普及行事『中級クラス植物観察会』は、植物の名前の調べ方や標本の作製・整理の方法など、“中級程度の植物学的知識や技術”を身につけていただくための講座として開講されてきました。平成27年度から、皆で文化の森周辺の調査を行い、そこに生える植物の種類を網羅的に調べる活動です。いわゆる“観察会”では、野外で植物を見て、講師が名前を教えてくれ、それを聞くというスタイルが普通なのではないかと思いますが、この講座では参加者が“自分自身”で名前を調べてきました。

自分の力で植物を調べ、社会に活かす

植物について詳しく勉強するためには、まず、きちんとした標本を作らなければなりません。野外で植物をしっかりと観察し、採集をすることは植物を知る第一歩です（図1）。続いて採集した植物は標本にします。植物の場合、それは押し花

です。はじめは、戸惑っていた参加者の方々も、実習を通してだんだんと綺麗で学術的な標本が作れるようになっていきました（図2）。標本にした植物は、図鑑などを使って名前を調べます。しかし、実はそれはとても難しい作業なのです。専門用語の理解や検索表と言う名前調べのための道具の使い方を身につけなければ先へは進めません。しかし、それだけに自分自身の力で植物の名前を調べられるようになることは、とても素晴らしいことだと言えます。また、観察会の最後には、お互いの調べた植物について、どこが見分けるポイントなのか紹介しあう時間をもうけてきました（図3）。自分が悩みながら学んだ植物の見分け方を、互いに教え合うことで、ずっと早く植物の見分け方を身につけることができます。

このようにして身につけた知識や経験は、『はじめての植物かんさつ』や『ゼロから始める植物学』など、当館の初心者向け植物学講座での解説や標本紹介などで活かされています（図4）。自分が身をもって植物の名前の調べ方を体験することで、初心者にもわかりやすい解説ができるようになります。こうしてこれまで学んできた知識や経験は、多くの人の学習の助けとなっています。さらに、これまでの調査成果を展示として表現したり



図1 植物を採る。



図2 標本を作って名前を調べる。

(図5)、採集した標本を国内外の標本庫と交換する活動を通して、地域の文化的活性化や博物館資料の充実などにも大きく貢献しています。

新しい植物も

『中級クラス植物観察会』で採集された標本の中には、これまで文化の森では知られていなかったものもたくさんありました。2015年5月、公園内で行われた行事で、小部ゆり乃さんが“黄色い花の草”を発見しました(図6)。その後、この標本は参加者の白井朋子さんによって詳細に検討され、ヨーロッパ原産の多年草で、北海道、千葉県、東京都および岡山県などからも記録があるハイキジムシロであることがわかりました。徳島県からは、これまでに記録されたことがないとわかり、当館の研究報告に白井さん達が執筆した論文が掲載されました。また、2016年9月には、見慣れない小さな草を見つけました。小さな植物なので、念のためサンプルを採り小川英則さんにも詳しく調べてもらいました。その結果、この草は、アワゴケであり、これまで文化の森では見つかったことがない植物とわかりました。そこで、

当館の博物館ニュース(No.104「身の回りの植物を調べよう!」)にレポートとして掲載しました。自分自身が見つけた植物について、自分の力で文章にして公表する活動は、その方自身の力にもなり、また地域文化の向上のための貢献となります。

このように『中級クラス植物観察会』は、長年にわたり、文化の森の植物を網羅的に調べることを目的に活動を行ってきました。それも、前年度までには、目的をほぼ達成できたかと思います。

そこで、今年度からは、タイトルも一新『花巡り!植物かんさつハイキング』シリーズとして、県内各地で観察会を行うことにしました。文化の森の中では見ることはできない、もっとたくさんの素晴らしい植物に出会えることと期待しています。また、初級向けの講座、『はじめての植物かんさつ』や『ゼロから始める植物学』シリーズも引き続き開催されます。

これらの行事を通して、将来の徳島県の植物学を担う人材が少しでも育って欲しいと期待しています。行事は、いずれも申し込み不要です。少しでも植物に関心のある方は、是非ご参加ください。



図3 自分の調べた植物について教えあう。



図5 調べた内容について展示を行う。



図4 『初めての植物かんさつ』で解説を行う。



図6 ハイキジムシロ(小部ゆり乃氏撮影)。

とくしまの恐竜時代

－ 徳島県の恐竜化石発掘報告 －

徳島県は、恐竜時代（三畳紀、ジュラ紀、白亜紀）の地層が広く分布しています。近年、徳島県勝浦町の白亜紀前期の地層から、相次いで恐竜化石が発見されました。また、この恐竜化石を含む地層（いわゆるボーン・ベッド）からは、恐竜化石以外にもワニの歯やカメの甲羅、硬鱗魚のウロコ、淡水生サメ類の歯など、多様な動物化石も発見され、全国的に注目を集めています。

本企画展では、徳島県立博物館を中心とする研究チームによって発見された勝浦町の恐竜化石をはじめ、徳島県内外の恐竜時代の地層から産出した動物・植物化石を紹介します。

● 会 期 7月19日(金)～9月8日(日) 休館日:毎週月曜日(※8/12(月・振替休日)は開館)

● 会 場 徳島県立博物館 1 階企画展示室

● 主 催 徳島県立博物館

● 観覧料 一般：200円、高校・大学生：100円、小中学生：50円、未就学児無料

※20名以上の団体は2割引／土・日曜日、祝日、夏休み期間中の高校生以下は無料／身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳所有者及びその介助者1名は無料／65歳以上は100円（証明書等の提示が必要）／学校教育による利用は無料

■ 展示解説 ①7月21日(日) ②8月4日(日) ③9月1日(日) [すべて14:00～15:00]

■ 展示構成 (予定)

① 徳島の恐竜時代の化石

- ・ 徳島の三畳紀・ジュラ紀の地層と化石
- ・ 徳島の白亜紀前期の地層と化石
- ・ 徳島周辺の白亜紀後期の地層と化石
- ・ 徳島の恐竜化石

② 日本や世界の恐竜時代の化石

③ 恐竜から鳥へ



延喜式と三木家文書

—古代・中世の大嘗祭関係資料—

去る5月1日、新元号「令和」がスタートしました。近現代では初めての生前退位による天皇代替わりのためです。そして、11月には、新天皇の即位にかかわる儀式の一つとして大嘗祭が行われます。大嘗祭とは、天皇が即位後に初めて、収穫されたばかりの穀物を神に供え、自らもそれを食べる祭です。おおむね15～17世紀を除いて、古代以来行われてきたもので、阿波にもかかわりがあります。

ここでは、当館に収蔵している、古代・中世の大嘗祭（大嘗会）に関する資料のうち2件を紹介します。これらをはじめとする関係資料を部門展示「大嘗祭と阿波」（10月1日～12月1日）で公開する予定です。

延喜式（図1）

原著は延長5年（927）に完成した法令書ですが、本資料は慶安元年（1648）に印刷・出版されたものです。大嘗祭についての詳しい規定が見られ、これによると、阿波国が負担する由加物（神への供え物）を麻殖郡の忌部と那賀郡の潜女が調達することになっていました。このときに阿波忌部が用意する鹿布が神祇官に収納され、大嘗祭の際に鹿服として用いられました。

なお、阿波忌部とは、中央の祭祀氏族であった忌部（斎部）氏が地方に置いた集団に由来し、律令制下では神祇官に統括されたとみられています。

三木家文書（図2）

美馬市木屋平の三木家に伝来した古文書で、当館で保管しています。中世文書全47点のうち、近代の写を除く45点が徳島県指定有形文化財となっています。

大嘗祭における鹿服（文書の表現では「荒妙御衣」）に関する文書が含まれていることが特徴的です。それらの時期は12世紀末から14世紀前半で、太政官符や官宣旨といった朝廷の命令文書により、阿波国（国司）を介して忌部氏を称する人々に鹿服が求められたことが分かります。中世においても、大嘗祭における古代阿波忌部の役割が継承されており、たいへん興味深いものです。

（歴史担当：長谷川賢二）

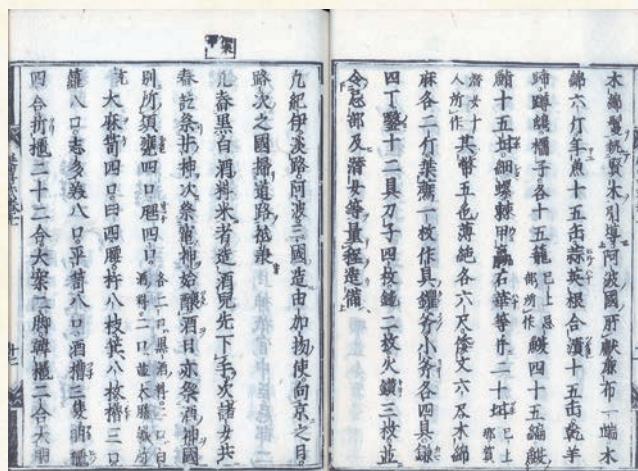


図1 延喜式 巻七

見開き右側に、阿波国が献納する由加物の内容が記載されており、忌部・潜女が調達したことが分かります。

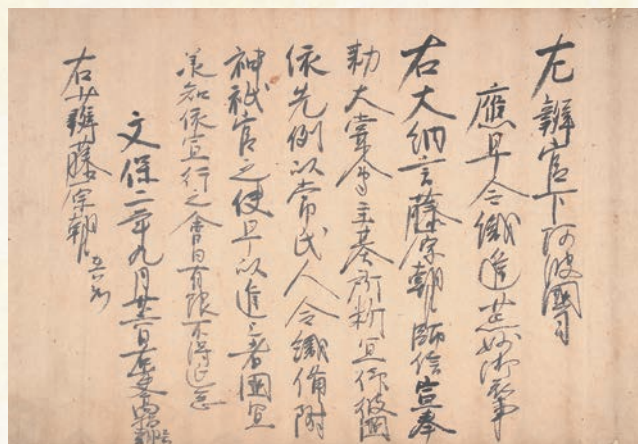
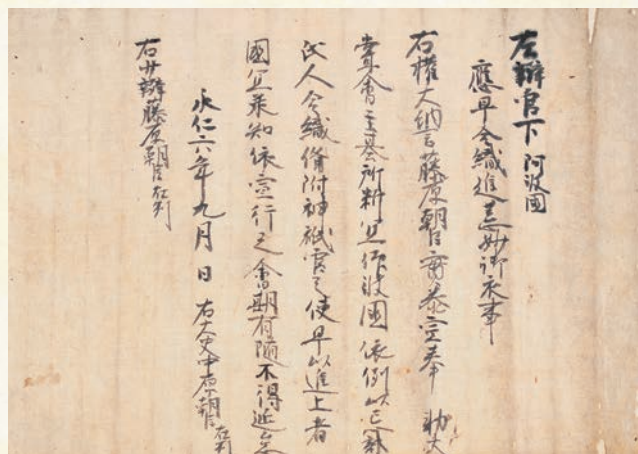


図2 官宣旨案（三木家文書のうち）

上段は永仁6年（1298）、伏見天皇の大嘗会に際してのもの。

下段は文保2年（1318）、後醍醐天皇の大嘗会に際してのもの。

いずれも、「荒妙御衣」を忌部氏人に織らせて、神祇官の使者に渡すよう阿波国（国司）に命じたことが分かる古文書。国衙からもたらされたと思われる写です。

『絵本目録覚』

—徳島藩の絵師の絵手本リスト—

江戸時代、諸国の藩はしばしば絵師を抱えていました。徳島藩もおなじで、たとえば矢野家は、記録から代々の名が分かり、制作のときにつかう絵手本（専門用語で粉本といいます）も多くのこしています。ただし今では作品をほとんど眼にすることがありません。

矢野家はもともと料理方でした。勘五郎常博（?—1756）のときに藩命で絵を描くようになりました。つぎの栄教典博（?—1799）は、当時もっとも勢いのあった幕府奥絵師の江戸木挽町狩野家当主・栄川院典信に入門しました。典博をついだ伊籍栄直（1791—1811）は、典信の後継者である養川院惟信、伊川院栄信の教えを受けましたが、病のために若くして亡くなりました。伊籍の弟であった伊章栄雅（?—1840）が、役目をつづけるためにいそいで栄信の門に入り、その子章三郎由直が晴川院養信の弟子となりますが、章三郎はなぜか途中で絵の修業をやめてしまいました。

伊籍は、母の看病のために修業を休み、徳島にもどっていて自身も病にたおれました。ここにあげる『絵本目録覚』（図1、2）は、彼が国もとで30歳をむかえた文化3年（1806）の年記があり

ます。当時、30歳は絵師が一人前になる区切りの年齢でしたが、彼にはどのような想いが去来したのでしょうか。

『絵本目録覚』は、常博、典博、栄直の3代がためた絵手本を目録にまとめています。絵手本は、巻物や、折りたたまれた1枚もののかたちをしていました。絵の依頼があると、『絵本目録覚』からふさわしい画題をえらび、実際の絵手本をひろげてそれを写しました。

絵手本を写して作品にするのは、今日の感覚からはすこし奇妙なやり方かもしれません。しかし狩野家につらなり、藩に抱えられた絵師たちは、今のいけばなや茶の流派のように、きめられた「型」を大切に守りました。絵をたのむ方も、その「型」のなかに権威や格式のたかさを感じとって満足しました。

『絵本目録覚』に記載された絵手本は、ばらばらな状態ですが現在まで伝わっています。それらを照合すると、矢野家が手がけた画題がどのようなものであったのか、傾向を知ることができます。たとえば中国の故事や神仙をめぐる話、布袋、大黒天、寿老人などの福神が多かったことが分かります。

（美術工芸担当：大橋俊雄）



図1 『絵本目録覚』表紙（徳島県立博物館蔵）



図2 『絵本目録覚』のうち「聖人賢人臣下」の項
画題の下にある名前は、絵手本の原本の作者名。

クスノキの葉に寄生する外来昆虫がいるようですが、何ですか？

クスベニヒラタカスミカメ *Mansoniella cinnamomi* のことです（図1）。つい最近、原産地の中国から日本に侵入しました。カメムシ目カスミカメムシ科のなかまで、体長6～7ミリメートルの長細くて扁平な体をしています。体には黄色や橙赤褐色の派手な模様があるため、小さくてもよく目立ちます。通常、クスノキ *Cinnamomum camphora* の葉の裏に複数個体が集まって生活し、そこで吸汁行動が行われます。吸汁された葉には褐色の斑紋が無数にできるため、カメムシの派手な体の色が目立ちにくくなります（図2）。繁殖力はきわめて高く、出現のピークとなる10月頃には1本のクスノキから数百から数千個体も発生することがあるようです。

国内では2015年10月に大阪府岸和田市で初めて見付き、ほぼ同時に兵庫県伊丹市からも発見されました。発見場所や発生状況から考えると、原産地である中国から関西地方へ侵入したとみられています。2016年末までに近畿地方のほぼ全域に拡がり、2018年には岡山県、神奈川県、愛媛県、愛知県でも確認され、本種の分布域が中国・四国地方から関東地方まで広範囲に及んでいることがわかりました。いずれの場所でも、市街地や住宅地に植栽されたクスノキが主な発生源となっています。

2017年12月の時点で淡路島南部（兵庫県南あわじ市）まで確認されていましたが、徳島県からは見つかっていませんでした。ところが2018年8月に愛媛県松山市から見つかったため、急遽調査を行ったところ、徳島県でも本種の発生が認められました。加害されたクスノキの状況から、徳島県内へは淡路島から侵入したと考えられます。本種の影響でクスノキが枯死することはないようですが、大量発生した場合、葉の褐変や落葉などで美観が損なわれることも考えられます。クスノキは社寺などで記念樹や御神木として保存されている場合もあるため、今後の分布拡大と被害の影響が心配されます。

（動物担当：山田量崇）



図1 クスベニヒラタカスミカメの成虫
（提供：伊丹市昆虫館 長島聖大）



図2 葉に生じた褐色の吸汁痕

7月から9月までの博物館普及行事

あなたも参加してみませんか？

シリーズ名	行 事 名	実施日	実施時間	申込	対 象 (定員)	備 考
野外生きものかんさつ	花巡り！植物かんさつハイキング7月 ～真夏の森林浴～	7月 7日(日)	10:30～17:00	不要	小学生から一般	弁当・水筒持参 高越山船運つづき公園駐車場 (吉野川市山川町)集合
	川魚かんさつ★	7月13日(土)	10:00～12:00	要	小学生から一般(40)	現地集合
	初めての植物かんさつ(夏編)★	7月20日(土)	13:30～15:30	不要	小学生から一般	同日開催 「ゼロから始める植物学」
	夏の昆虫ウォッチング★	7月21日(日)	10:00～12:00	要	小学生から一般(20)	文化の森公園集合
	水生昆虫のかんさつ★	7月28日(日)	10:00～12:00	要	小学生から一般(30)	現地集合
	漂着物を探そう！★	9月 1日(日)	10:00～15:30	不要	小学生から一般(45)	貸切バス
	花巡り！植物かんさつハイキング9月 ～秋の実りを見つけよう！～	9月15日(日)	10:30～17:00	不要	小学生から一般	弁当・水筒持参 神山森林公園レストハウス前 (神山町)集合
みどりを楽しもう・ 味わおう	夏休みの自由研究に！植物の繊維を取ろう★	7月28日(日)	13:00～16:00	要	小学生から一般(20)	
	葉っぱのスタンプで遊ぼう★	8月 4日(日)	13:00～16:00	要	小学生から一般(20)	
たのしい地学体験教室	貝化石標本をつくろう★	7月14日(日)	13:30～16:00	要	小学校5年生以上(25)	
古文書で学ぶ歴史入門	古文書に親しむ①～⑤	9月21日(土)	13:30～15:00	要	一般(30)	①～⑤セット 申込みは9/11(水)まで
		10月19日(土)				
		11月16日(土)				
		12月21日(土)				
		1月18日(土)				
ワクワクむかし体験	さきどり自由研究、民具にチャレンジ★	7月 7日(日)	13:30～15:00	要	小学生から一般(20)	
ミュージアムトーク	ゼロから始める植物学～標本の作り方編～★	7月20日(土)	10:30～12:00	不要	小学生から一般	同日開催 「初めての植物かんさつ」
海部自然・文化セミナー ※海陽町立博物館共催	以西底曳網漁船の漁業日誌	7月28日(日)	13:30～15:00	不要	小学生から一般(50)	会場：海南文化館
	山を登ったドジョウ：ナガレホトケドジョウ	8月25日(日)				
	近世阿波の工芸職人	9月22日(日)				
企画展関連行事	企画展「とくしまの恐竜時代」展示解説	7月21日(日)	14:00～15:00	不要	－	観覧料必要
	企画展「とくしまの恐竜時代」展示解説	8月 4日(日)				
	企画展「とくしまの恐竜時代」展示解説	9月 1日(日)				
	化石のレプリカをつくろう	9月 7日(土)	13:30～15:00	要	小学生から一般(25)	材料費100円 (高校生以下は不要)
部門展示関連行事	部門展示「アゲハチョウと甲虫」展示解説	7月14日(日)	14:00～15:00	不要	－	観覧料必要
	部門展示「アゲハチョウと甲虫」展示解説	8月11日(日)				
	部門展示「アゲハチョウと甲虫」展示解説	9月29日(日)				
博物館スペシャル	教員のための博物館の日 in 徳島	7月24日(水)	10:00～16:00	要	お申し込み・お問い合わせは、 徳島県立総合教育センター(088-672-6418)へ	
	標本の名前を調べる会★	8月17日(土)	10:00～16:00	不要	小学生から一般	☆参照
	文化の森サマーフェスティバル	8月18日(日)	9:30～16:00	不要	－	

◎★印の行事は「チャレンジ自由研究」対応行事です。 ◎小学生が参加する場合は保護者同伴です。 ◎全ての行事が「文化の森教室」に該当します。
☆「標本の名前を調べる会」は、植物・動物(昆虫・貝など)・岩石・化石などの標本の名前を調べる行事です。希望者は採集標本(1人30点以内)を持って、直接博物館までお越しください。定員はありません。

普及行事のお申し込みについて

- ◎1枚の往復はがきで、1行事のみ申し込むことができます。
- ◎行事日の1か月前から10日前までに、必着でお申し込みください。
- ◎返信用はがきの住所・氏名を記入してください。
- ◎希望者が多数の場合は抽選とし、詳細は当選された方にお知らせします。
- ◎原則として、参加費は無料です。
- ※お問い合わせは、徳島県立博物館まで(電話 088-668-3636)

往復はがきの記入例

<往信の表面>	<返信の裏面>	<返信の表面>	<往信の裏面>
62 〒770-8070 往信 徳島市八万町 向寺山 徳島県立博物館	何も書かないで ください	62 〒□□□□□□ 返信 あなたの 郵便番号 住所 氏名	1.参加希望の 行事名 2.参加希望者 全員名 (学年・年齢) 3.住所 4.電話番号

特典がいっぱい!! 博物館友の会に入会しませんか!

博物館友の会は、体験活動を通して、自然や歴史・文化について、楽しく学んでいます。みなさんも参加してみませんか!

- 年会費 ・個人会員2,000円
・家族会員3,000円
(10月以降、年会費がそれぞれ半額となります。)

会員の特典

- ・博物館の企画展と常設展を無料で観覧できます。
- ・友の会行事に参加できます。
- ・友の会の出版物やミュージアムショップの商品を、1割引で購入できます。
- ・催し物案内や博物館ニュース、会報などが、毎月お手元に届きます。



◆2019年度の行事予定(友の会会員対象の行事です。)

- 6月 2日(日) 化石をさがそう! (兵庫県南あわじ市) ※終了
- 6月16日(日) 遺跡・古墳見学 (石井町) ※終了
- 7月20日(土) 那賀町日帰りバスツアー (那賀町)
- 7月27日(土) 夜の文化の森たんけん (文化の森総合公園)
- 10月26日(土) 大昔の火おこしを体験しよう! (文化の森総合公園)
- 12月 7日(土) 高知日帰りバスツアー (高知県高知市)

※行事名・期日・場所は変更する場合があります。あらかじめご了承ください。詳しくは、友の会事務局まで(電話088-668-3636)

上記お問い合わせは、徳島県立博物館まで(電話 088-668-3636)